











# 令和3年 **8**月の大阪森林便り

## 目次

### 今月の木の話 **神聖な松**

- (1)  国産木材増産 3つの壁 山林整備・林業家の採算・建材変化
- (2)  現下の「ウッドショック」を分析
- (3)   米住宅ローン申請件数減 1年半ぶり低水準に
- (4)  輸入合板、14年半ぶり高値 マレーシア都市封鎖響く
- (5)  木造建築に改めて脚光
- (6)  住宅集成材が最高値 3カ月連続 欧州産原料の高騰響く
- (7)  輸入合板が一段高に 東南アジアで減産、供給停滞
- (8)  国産材、代替需要で急騰 米発「ウッドショック」輸入減
- (9)  マンション工事に国産型枠 三菱地所系

### 今月の木の話

#### **神聖な松**



- \*正月といえばやはり松。古今集には松の歌も多くあります。
  - \*新年のめでたさは今も変わりません。
  - \*松の巨樹は、樹種別では第7位、1669本が認められています。
  - \*これらの巨樹はすべて県や市、町の天然記念物等で、国の指定物としては登録されていません。
  - \*国の指定基準は、「学術上貴重で、わが国の自然を記念するもの」となっています。
- (2008年発行 (社)大阪府木材連合会・大阪木材仲買協同組合発行「天然記念物 巨樹・古木」より抜粋・引用)

#### (1) **国産木材増産 3つの壁**

#### **山林整備・林業家の採算・建材変化 ウッドショック対応鈍く**

- \*国産木材の出荷が伸び悩んでいます。
- \*米国の住宅需要に起因する輸入木材の相場高「ウッドショック」の影響で、国産材に注目が集まりました。

- \*国産材の出荷量のひっ迫感から価格も上昇。
- \*山からの丸太の出荷が少なく、多くの製材所が増産に踏み切れません。
- \*国産の製材用丸太の工場への入荷量は、5月に102万M3。前年同月比8.3%増。
  - ・2019年5月と比べると、8.9%減少。
- ☆国産材の増産が急には進まない要因
  - ①丸太を出材する山の整備が進まない。
  - ②製材価格が上がっても、山の所有者には売り上げが還元されにくい仕組み。
    - \*丸太の売り上げから伐採や搬出などの経費を差し引いた「立木価格」が、流通経費の増加などを背景に下落しています。
      - ・2020年の杉丸太の価格は1M3当たり2900円、同年の杉丸太の価格（同12,700円）の約2割。2000年には丸太価格の半額近くを占めていました。
  - ③住宅の建て方の変化。
    - \*人工的に乾燥させた材の需要が高まりました。
    - \*小さい国内の製材会社は、乾燥用設備が導入しづらく、乾燥された輸入材へのシフトが進みました。
      - （2021年7月2日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

## (2) 現下の「ウッドショック」を分析

### ①世界的な需要の変化

- \*コロナの感染拡大とそれに伴う政府の景気刺激策が、米国の住宅市場の成長を促す要因。
- \*米国の2021年3月の住宅着工戸数は前年比67%増、年間170万戸に達する勢い。
- \*2021年の欧州の針葉樹製材消費量は、350万M3増えて8470万M3になる見通し。
- \*中国の旺盛な需要で、年明け以降ニュージーランド・北米・欧州さらには日本からの輸入を積極的に拡大。
- \*中国は年間2970万M3の製材品を輸入。米国の年間輸入量は2450万M3。
  - ・両国の年間輸入量を足すと、日本の550万M3の10倍に。

### ②世界的な供給の変化

- \*近い将来にかけて針葉樹の木材生産を大幅に増やすという選択肢が、世界的にほとんど見られません。

### ③世界的な輸送の制約

- \*船舶とコンテナの世界的な不足。
- \*日本をはじめとするアジア諸国で、木材の港湾在庫が徐々に減少。

・東京木材埠頭(株)の輸入木材の月末在庫は、2020年1月の145,495M3から2021年1月には76,675M3とほぼ半減。

\*コンテナの供給が正常化するのには2021年末になりそう。

#### ☆世界の木材市場の展望と日本市場への影響

\*5月下旬には北米の木材価格は、ゆっくりとピークアウト。

\*金利の上昇と値ごろ感の低下により、米国の住宅需要に歯止めが掛かり始めています。

\*日本への北米・欧州からの供給量は、減少し続けています。

\*日本と世界市場の価格ギャップは大きいまま。

・米国を始めとする世界市場との価格のギャップ拡大が、日本への輸出を制限する要因となる可能性があります。

(2021年7月5日 東洋木材新聞記事より抜粋・引用)

#### (3) 米住宅ローン申請件数減 1年半ぶり低水準に

##### 高騰で購入難しく

\*米国の住宅ローンの申請件数が落ち込んでいます。

・7月2日までの週間の住宅ローン申請件数は前週比1.8%減、前年同月比で10%減。

\*金融緩和の恩恵を受けた富裕層の積極的な購入で住宅価格が高騰し、庶民は手を出しにくくなっています。

\*4月の全米住宅価格は、前年同月比で16%上昇。1991年以来で最大の上昇率。

(2021年7月9日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

#### (4) 輸入合板、14年半ぶり高値

##### マレーシア都市封鎖響く

\*東南アジアから輸入する合板の国内流通価格が高騰しています。

\*型枠用合板の価格は、約14年半ぶりの高値。

・6月に比べ6%上昇し、2006年12月以来の高値。

・直近底値だった2020年10月からは17%の上昇。

\*現地では原料の丸太価格が天候不良やコロナ禍による労働者不足などで高止まり。

\*現地の大手合板メーカーが丸太と人手の不足で5,6月の新規受注を停止。

\*コロナ感染の急拡大で、マレーシアが6月からロックダウンに入ったことも、品薄感を高めます。

\*普通合板も最高値を更新。

\*薄物は高額な良質丸太が必要なうえに厚物より採算性が低いとあり、現地メーカーが特に生産を減らしています。

(2021年7月9日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (5) 木造建築に改めて脚光

☆人にも環境にもやさしく

\*木は光合成により大気中のCO<sub>2</sub>を吸収しながら成長し、木材として生産されてからも炭素を貯蔵し続けます。

・住宅1棟当たりの炭素貯蔵量を見ると、鉄筋コンクリート造や鉄骨造プレハブの約4倍。

・建築時やライフサイクル全般を通じてCO<sub>2</sub>排出量が少ないうえ、植林やリユースによる再生産が可能と、循環型資源として優れた特質を備えています。

\*木は優れた断熱性による冷暖房コストの削減や、調湿作用による室内環境の改善が期待できます。

\*柔らかでぬくもりある感触や木材ならではの香りにはリラクセス効果があるとされ、衝撃力を緩和する効果もあります。

☆「木材推し」国の施策にも

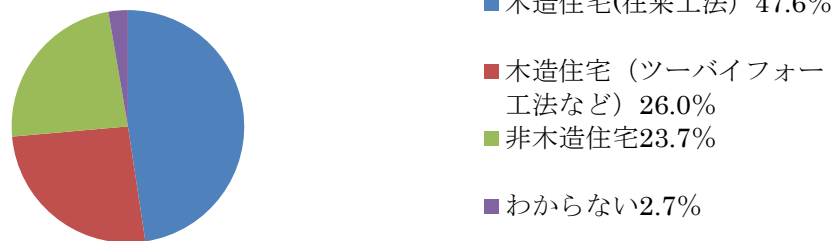
\*住生活基本計画では、炭素貯蔵効果の高い木造住宅の普及が掲げられています。

\*グリーン成長戦略でも、国の公共調達による木造化・木質化の普及・拡大が取り上げられています。

\*家づくりに木材を用いるということは、メンテナンスをしながら長く住み続けることを通じて、地球環境や持続可能な社会に貢献していることになるといえそうです。

☆木造住宅へのニーズは高い

新たに住宅を建てたり、買ったりする場合、どんな住宅を選びたいか？



※2019 年内閣府「森林と生活に関する世論調査」  
(2021 年 7 月 9 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (6) 住宅集成材が最高値 3 カ月連続

### 欧州産原料の高騰響く

- \* 梁や柱に使う集成材は、集成平角の東京地区の問屋卸価格が前月比 24% 高。3 か月連続で最高値を更新。集成管柱も 25% 高。
  - \* 引き板材「ラミナ」の価格が高騰し、集成材メーカーが値上げ。
  - \* 欧州産ラミナは、7~9 月期の対日価格が、4~6 月期比で 82% 高。最高値を更新。
  - \* ラミナの今夏の輸入量は例年より 2~3 割少なくなりそう。
  - \* 米国の引き合いが依然強ほか、欧州の夏季休暇で工場が停止する影響も。
  - \* 年内は価格上昇が止まらないとの見方。
- (2021 年 7 月 16 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (7) 輸入合板が一段高に 東南アジアで減産、供給停滞

- \* 輸入構造用合板は、7 月上旬にくらべて 1% 高。
  - \* 東南アジアで減産が進み、供給が滞っています。
  - \* インドネシア・マレーシアでは新型コロナウイルスの感染が再拡大し、工場の稼働率が低下しています。
- (2021 年 7 月 20 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(8)  国産材、代替需要で急騰

米発「ウッドショック」輸入減

- \*大規模な製材所が多い西日本を中心に丸太不足が鮮明。
- \*国は国有林の伐採入札の前倒しを進める方針。
- \*ヒノキのKD正角は、首都圏の間屋卸価格が前月比で8%高。
  - ・グリーン材（未乾燥）も23%上昇。
  - ・1998年1月以来23年6か月ぶりの高値。
- \*杉のKD正角は前月比で9%上昇。グリーン材は12%高。
  - ・1997年5月以来24年2か月ぶりの高値。
- \*ヒノキ丸太の全国平均価格は、前月比18%上昇。前年同月比で58%高。
- \*ヒノキの生産地は西日本に多く、全国で植林する杉より供給量は少なくなります。
- \*5月の木造住宅の着工戸数は、前年同月比15.5%増の41,156戸と2カ月連続で前年を上回りました。
- \*国有林から出る丸太は、国産材の約15%を占めます。  
(2021年7月21日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(9)  マンション工事に国産型枠 三菱地所系

合板、SDGs対応で初採用

- \*三菱地所レジデンスは、初めて国産のコンクリート型枠用合板を工事で使った分譲マンションを販売。
- \*三菱地所グループは2030年度までに、型枠用合板を国産や人権や環境に配慮した合板に切り替える方針。
- \*国内で使う型枠用合板の9割がマレーシアやインドネシア産などの輸入品。  
(2021年7月21日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

